

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000515		
法人名	NPO法人 生きがいセンター		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-3 (電話) 0134-54-1112		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月9日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】 (21年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年 9月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	26 人 常勤 8人、非常勤 18人、常勤換算 11.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	光熱費他 15,000円 暖房費(10~5月) 8,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (3月9日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、中垣病院、朝里整形外科、朝里病院、野口整形外科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小樽市郊外の温泉街入口に位置する「グループホーム生きがい」は、運営するNPO法人が地域住民のため利用しやすい施設づくりを目指して開設したホームである。職員は、利用者の思いや意向を大切にしながら蓄積した情報を丁寧に活かし、一人ひとりに合わせた支援に努めており、利用者の明るい様子が印象的なホームである。敷地には緑豊かな自然があり、気候の良い時期には利用者が遊歩道を散策したり、菜園で野菜づくりを楽しむなど環境的にも恵まれている。地域との交流も大事にし、隣接グループホームと共同で夏祭りの開催、小学校の運動会や地域の収穫祭などへの参加、小学生の訪問や各種ボランティアの慰問も多く、地元に溶け込んだホームとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型運営理念の明示は、検討課題として研究中であるが、市町村との連携は担当者積極的に接触し、同業者との交流は、ほかのホームの見学実施などを進めている。利用者の重度化に対しては、家族に十分説明しており、指針作成も考慮中である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表は、一定の項目毎に職員全員に渡されて各自が記入し、最終的には管理者がまとめて作成している。自己評価の結果、明らかとなった課題についてはミーティングで協議し、緊急度に応じてフロア会議等で具体的取り組み方法を検討しながら、改善に向けて努めている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月毎、定期的開催しており、運営状況や外部評価、自己評価についての報告、災害訓練などのホーム行事への協力要請を行なっている。会議においてホームへの意見や要望が出された時は、職員のミーティングで検討しながら、運営に反映させるよう努めている。現在は、会議の参加者にホーム関係者以外のメンバーが少なく、包括支援センター、町内会役員、教育関係者などのメンバー増員が課題となっている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームとしての苦情処理体制は整っているが、来訪時に家族が話しやすいように職員が配慮しながら、意見や要望等を聞くように努めている。意見等がある場合は、申し送りや業務日誌に記録し、ミーティングで発生要因を探りながら、内容に応じて時期を見極めながらサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは地域との交流を積極的に進めており、町内会へ加入しながら収穫祭などの地域行事、運動会や学習発表会などの小学校行事へ参加している。隣接グループホームと共同開催の夏祭りには地域住民が多数集まっただけ、ボランティアや小学生もホームを訪れていただくなど、地域と支え合う関係が築かれている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、利用者の町内会行事への参加、周辺住民や小学生のホーム訪問など、地域との積極的な交流を進めているが、地域密着型サービスの主旨が理念に記されていない。このため、今後の課題として検討中である。	○	ホーム運営理念またはホームポリシーの中に、地域との関係を強化しながら、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、支援する主旨についても記するよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念及びホームポリシーは、ホーム内随所に掲示されている。毎月実施している内部研修においても理念やホームポリシーの確認とこれに基づく具体的ケアのあり方を話し合いながら、職員の共有となるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、地域との交流を積極的に進めており、小学校の運動会など行事へ招待されたり、収穫祭や夏祭りなどの地域行事へ参加している。また、ボランティアのホーム慰問や隣接ホームと共同開催の夏祭りへ住民に参加いただくなど、地域と支え合う関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の狙いや活用方法を説明し、自己評価表を分担に応じ、職員全員に配布して記入するようにしている。職員が記入した自己評価表を管理者がまとめ、課題となる項目については、ミーティングでの検討や外部評価結果に基づき改善計画シートを作成して、具体的改善に向けて取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム 生きがい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、運営状況報告や自己評価及び外部評価結果の報告、ホームの災害訓練への協力要請などの意見交換が行なわれている。会議による意見要望等はミーティングで協議しながら、ホーム運営に反映させるようにしている。	○	運営推進会議参加者は、家族やホーム側の人員数が多いのに対し、外部のメンバーが少ない状況である。今後、町内会代表、包括支援センター、教育機関関係者など、できるだけメンバーを拡大し、よりモニター機能が推進されるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、書類提出時などに行政担当者とも接触し、介護保険に関する制度の質問やホーム運営の相談を行なうなど、行政との連携を保つように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、毎月の郵送書類に利用者の近況報告を記載している。家族のホーム来訪も多いため、その都度、利用者の生活状況を写真帳と共に説明している。しかし、ホーム便りについては発行頻度が少ないため、十分な報告機能を果たしていない状況である。	○	ホーム便りは、利用者の暮らしぶりやホーム運営状況について家族へ伝える重要な手段でもあり、発行頻度を増やされ定期的発信に期待したい。また、家族に職員を知っていただく事は相互の関係に重要であり、便りに新人職員の紹介を盛り込むなど、面会に来る事ができない家族への配慮も期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、主として家族の来訪時に聞くようにしている。苦情等がある場合には、その理由を探り、ミーティングで話し合いながら、課題解決に向けて取り組んでいる。また、サービスに関する苦情処理の概要を重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある際には、利用者の不安感など影響がないよう丁寧に説明し、職員が利用者と一対一で共に過ごす機会を増やしながら、理解していただくよう努めている。今までに職員の異動による利用者の混乱は発生していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を実施しており、職員が交代で決められたテーマについての研究発表や伝達講習を行ない、働きながら学ぶ体制を整えている。外部研修は、現時点では必ずしも多くはないが、できるだけ受講機会を増やすよう検討中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接グループホームと共同による行事開催や職員の交流がある。また、グループホーム協議会へも加入し、会議や研修を通じて情報交換を行なうと共に、夕張市のグループホーム見学会を実施するなど、ほかの業者との交流を通じてサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と入念な相談を重ねながら、ホームを見学していただき、利用者がホームの雰囲気馴染めるよう配慮している。利用者がホームに馴染めないようであれば、複数回ホームへ来ていただいてお茶を一緒にするなど、ホーム生活にできるだけ自然にとけ込めるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に過ごし、互いに助け合う家族としての意識を持ち、料理や掃除などの家事や菜園の手入れ方法を学ぶなど、互いに支え合う関係を大事にしている。職員は、人生の先輩として利用者を敬い、尊重する姿勢を保ちながら支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するため、直接利用者から話を聞くと共に家族からの情報収集、日常生活の行動や表情からくみ取るようにしている。把握が困難な場合でも根気よく話し合い、ホーム側の都合に合わせることにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、職員の全体会議でモニタリング総括表を作成し、ケアチェック表で確認しながら、一人ひとりに沿った具体的計画を作成している。利用者の身体状況によっては医療機関とも相談し、家族の意見を反映させながら、利用者に最適の介護計画になるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に担当者会議を開催し、モニタリングを行ないながら定期的に見直しを行なっている。毎日の個人別記録の概要を支援経過シートに纏め、内容をモニタリングやアセスメントに反映させている。利用者の状況変化があった時は、医療機関とも相談しながら作成し、家族に説明して了解をいただいている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や外出行事に車両を利用しており、地域行事への参加も積極的に支援している。家族来訪の際、希望があれば食事提供や宿泊が可能であり、利用者の居室以外に隣接グループホームの宿泊室を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を密にし、整形外科と内科は定期的に往診があるが、利用者や家族の希望によって他医療機関受診も自由である。この場合、原則家族対応であるが、家族の状況によってはホームの車両で職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは、重度化や終末期に対する指針は作成していないが、入居時に家族へホームとしての対応を説明し、了解をいただいている。終末期等が発生した時は、協力医療機関や家族と相談しながら対処する方針を職員の共有としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーに関する事を他人に話さないようにしており、利用者への言葉かけも誇りを損ねないように注意している。利用者の介護計画など各種記録も適正に管理し、関係者以外に知られることの無いようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースに合わせてゆったりとその人らしい暮らしを過ごせるよう支援している。また、散歩や買物、各種行事への参加など、利用者の希望に応じて職員と一緒に出かけるなど、柔軟に対応している。		

小樽市 グループホーム 生きがい

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理、後片付けは利用者と職員が一緒に行なっている。食事中は同席して同じ食事を取り、話をしながら楽しく過ごしている。時折外食をしたり、季節によっては、敷地内の園庭で茶菓や食事を取り、食事に変化をつけ楽しみなものになるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯に2～3人を支援しているが、身体の汚れが発生したときは時間外でも入浴が可能である。また、天候の良い時期には、希望によって午前中にシャワー浴も行なっている。入浴中はゆったりと寛げるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事準備や後片付け、洗濯物たたみ、菜園の手伝いなど一人ひとりが出来ることの役割を持っている。さらに、パズル、塗り絵、くす玉作りなどの気晴らしやボランティアによる民謡、踊りなどを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間以外は、緑豊かな敷地内を散歩をしながら自然を満喫している。また、地域のお祭りや収穫祭に出かけたり、車で市内の公園や水族館にも見学に行き、利用者に喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠によって利用者に閉塞感を与えるなどの弊害を理解しており、日中はホームの玄関やユニットドアに施錠は無い。ユニット入口は内部から見通しが良く、利用者が外部へ出ようとする気配は職員が分かるようになっている。		

小樽市 グループホーム 生きがい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームは年2回の避難訓練を夜間想定訓練を含めて消防署の協力をいただきながら実施しており、隣接グループホームとの連携体制も整っている。運営推進会議においても避難訓練への協力をお願いしている。	○	避難訓練は定期的には実施しているが、今後は地域住民との協力体制をどう構築するかを検討し、訓練への住民参加をいただけるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養バランスを考慮して、協力医療機関の栄養士によってカロリー計算されたメニューの食事を提供している。利用者によってはお粥や刻み食など、一人ひとりに合わせた形態に配慮した支援を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは総体的に明るく清潔感もあり、共用空間の居間及び食堂の壁面には、絵画や利用者の作品が飾られ、家庭的雰囲気の中でゆったりと居心地良く過ごせるようになっている。また、自然に囲まれており、窓から四季の移り変わりが確認できるなど、安らぎ感を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分なスペースを有する居室は、備え付けのクローゼットによって、室内整理が容易であり、利用者は好みの調度品などを自由に持ち込みながらゆったりと暮らしている。植物や写真、手作りの物など、思い思いに飾りつけがされている。		

※ は、重点項目。